

# NHK バラエティ番組に見る文字テロップの変遷 — テレビにおける表記実態と機能の分化 —

設 樂 馨

(武庫川女子大学文学部日本語日本文学科)

## The change of TELOPs on NHK variety shows — the actual conditions and two functions of writing information —

Kaoru Shitara

*Department of Japanese Language and Literature, School of Letters  
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

### Abstract

How have the TELOPs run from the 1960s to the 2000s? What part have the TELOPs played in the Japanese TV programs? Japanese variety shows often use the TELOPs and writing information on the set. The viewers who enjoy the program with the TELOPs are said to have some interest in the TELOPs, but not enough research has been conducted. NHK is now prepared for those who carry on various researches. This paper investigates the actual conditions of those writing information. In this paper I use the last 50-year writing date, cited from the variety shows in the NHK archives. The amount of writing information has gradually increased from the 1960s to the 2000s. The TELOPs have two functions. The first function is to clarify the composition of the program. The second function is to bring about the stage effects and “hook” the viewers. This research suggests that the writing tool has much changed the writing information including the TELOPs. New writing technology has “hooked” viewers who are doing something else besides watching TV.

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景と目的

テレビを見ていると、その画面には美術道具や舞台セットの文字や画面に被せられた文字テロップなど、様々な文字情報が現れる。この文字情報は、表記だけで伝達するものでなく、映像や音声情報と共に受容され、重複する情報を伴っていることが注目される。こうした性格を持つためであろうか、文字情報の一種で映像に被せられる「文字テロップ」は、1990年代から目立ち始め、便利なものとも、目障りなものとも言われながら、そのあり方について視聴者の関心を引く事象となっている\*。

しかしながら、この文字テロップを調査及び、研究の対象として扱う場合、アーカイブス(保管された映像資料)が整備されておらず、過去にさかのぼって調べることは難しかった。このため、文字テロップ研究は、資料収集が可能な時代(研究時期とほぼ同時代のもの)に限定され、経年による変化を実証することは不可能であった。

今回、筆者はNHKアーカイブスの学術利用トライアル研究第2期(2010年)に採用されたのを承け、

\*京都新聞 1997年6月9日夕刊に「うるさい? 分かりやすい? 近ごろTVで目立つテロップ」の見出し、日本経済新聞 2006年1月24日夕刊に「テロップおせっかい? 役に立つ?」の見出しによる文字テロップに関する記事がある。

過去の番組を閲覧できることとなった。よって、文字テロップの変遷を考察するものとして、主に表記実態とその表記内容から機能を追究する。とりわけ表記内容が多彩なバラエティ番組に特定し、その文字情報(文字テロップを含む)について調査することで、文字テロップの機能が今日のように複雑になった経緯を明らかにしたい。

## (2) 仮説

本研究の開始以前に、文字テロップの制作に関して次のような知見を得ていた(NHK 放送文化研究所「2010年春の研究発表とシンポジウム」のパネルによる)。それは、文字テロップが1964年以前には手書きであり、東京オリンピックを機に写植化され、1988年から文字発生装置による制作となったことであった。このように表記するための道具(以下、表記道具と呼ぶ)が変化したことから推測すると、文字テロップの表記内容に大きな変革をもたらされたことが考えられる。また、テレビ放送を取り巻く社会状況も時代によって変化しており、その変化が文字情報に影響を与えた可能性は否定できない。

そこで、表記道具やテレビ放送に関わる社会状況など、文字テロップを取り巻く環境の変化がテレビの文字情報を変えていったとする仮説を立て、これに基づき本研究を開始した。

## 2. 分析対象の抽出と分析方法

### (1) コンテンツ

NHK アーカイブスに所蔵された資料(映像及び台本等を含む)は「コンテンツ」と称する。そのコンテンツについて、実際に使用可能だったものについて述べる。

まず始めに、テレビ放送開始時のコンテンツについて調査することとした。テレビ放送開始時のコンテンツとして2本のバラエティ番組「みんなで仲よく歌いましょう」「クイズ・コンテスト」が存在する(どちらもコンテンツ名に「NHK テレビジョン実験放送番組」を冠する、実験的な放送番組である)。いずれも1952年8月に放送されたもので、映像は残っていない。資料として確認できたものは、台本のみである。その台本には、「パタン」と表記された箇所があり、これが文字情報を示している。それらは手書きで、映像ではどのような表現(大きさや字体など)であったのか不明であった。また、表記内容が確定していない箇所が多く、「ピアノ伴奏 ○○○○」のように空欄になっている例が散見された。この2本のコンテンツのほかに1955年放送の「第6回 NHK 紅白歌合戦」の台本を確認したが、文字情報に関しては未記入で詳細は不明であった(「紅白歌合戦」のテレビ放送開始は1953年第4回から、それ以前はラジオ放送である)。

このように、台本だけでは映像化された文字情報の調査が困難であるため、映像が確認できるコンテンツから分析対象を抽出することとした。ただし、映像コンテンツから分析対象を抽出するには、それを視聴する時間と、そこに出現した文字情報を分析可能なデータとして書き起こす時間が必要である。この時間的な制約を加味し、5年ごとに代表的なバラエティ番組を選定した。またこれに、全国のNHK放送局で視聴可能なコンテンツ(NHK「全国の番組公開ライブラリー」の一部)を補充した。

結果的に、映像が確認できた最初のものは1960年代のものである<sup>\*\*</sup>。5年ごとのコンテンツに、文字テロップが写植化した1964年前後と、文字発生装置が出現した1988年前後のコンテンツを加え、計29タイトル79本(一覧は末尾の資料を参照)のコンテンツから分析対象を抽出することとした。

---

<sup>\*\*</sup>映像が保存されていても、「マスター」と呼ばれる状態はトライアル研究での視聴が不可能である。現物があるかないか、また、あっても現在の視聴環境に応じた保存状態であるかどうかによって、アーカイブス利用の可否が決定される。そして、NHKアーカイブスのごく一部が、全国のNHK放送局で「番組公開ライブラリー」として視聴可能となっている、というのが2010年調査時点の現状であった。

## (2) 分析対象

分析対象は、コンテンツを視聴しているときに、視認された文字情報(文字テロップやフリックボード等の表記を含む)である。コンテンツは持ち出しが禁じられており、映像として資料を得ることができない。映像資料が得られないということは、視聴の場において、分析の観点に応じて、映像に含まれる情報を書き起こさなくてはならない。映像に含まれる情報とは、例えば、文字情報と同時にどのような音声情報が受容できるのか、どのような画像を背景としているのか、こういった大きさでどのくらいの時間的長さで示されたのか、アニメーションやフォントなどデザインの違いが見られたのかといったことである。一方で、既述の通り閲覧時間は限定されているため、利用可能な時間内に書き起こすことができる情報を厳選しなくてはならない。

そこで、コンテンツを一時停止させながら表記内容を写し取り、表示位置やそれまでに見られなかった演出方法が認められた場合(例えば、表示フォントの変化や提示方法の違いがあった場合)には、その状況について備考欄に書き添えることとした(実際に作成したデータ例は後に示す資料表6を参照されたい)。

## (3) 分析方法

NHK アーカイブスに含まれるバラエティ番組には、大きく三種の傾向が認められた。第一は歌謡曲や音楽を紹介するもの(以下、音楽番組と呼ぶ)、第二はクイズやゲームを取り入れ知識やひらめきを楽しむもの(以下、クイズ番組と呼ぶ)、第三は寸劇やミュージカルとトークや歌を組み合わせる複合的なショーとなっているもの(以下、トーク番組と呼ぶ)である。このうち、第一の音楽番組に含まれる「紅白歌合戦」<sup>1)</sup>と、第二のクイズ番組<sup>2)</sup>は別に述べた。本稿は、それらの先行研究に述べたような個別的な番組傾向に関わらない、バラエティ番組全般における文字情報の変遷とその要因を分析してみたい。

手順として、量的な表記実態をつかむため、文字情報の出現回数を計量的に測定して図示する。続いて、質的な変化を見るため表記された内容(表記内容)を年代区分に従って示す。以上の結果を踏まえ、変遷過程から文字情報の機能がいかに分かれて複雑になっていったのか、その要因を考察する。

## 3. 量的変化

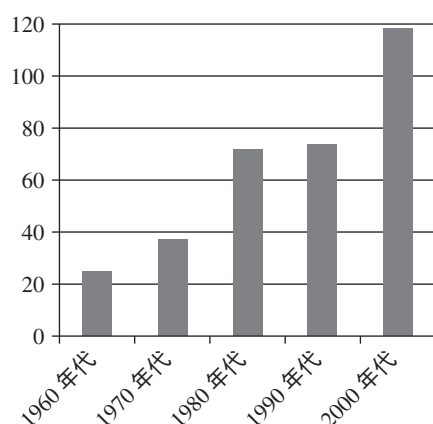


図1 30分当たりの文字情報の出現回数(年代別)

資料表6に挙げたような詳細なデータを得られたコンテンツは計34本であった(閲覧時間との兼ね合いのため。そのほかのコンテンツは部分的な傍証として用いる)。当該の34本に含まれる番組のうち、「夢で会いましょう」や「ザッツミュージック」「連想ゲーム」は放送時間が30分であるが、「思い出のメロディー」は120分、ほかにも40分、45分、70分といったコンテンツを含み、放送時間は一様ではない。そこで、1コンテンツ30分当たりの出現回数を求め、各年代別に集計したものが図1である。

図1に示す通り、年代が下るにつれて文字情報が増加している。1960年代、1970年代、1980年代と徐々に増加し、1980年代と1990年代では大差ない。2009年の新聞記事によれば、日本テレビのディレクターの発言を引いて「80年代まではテロップは少なかった」<sup>\*\*\*</sup>と言うが、NHK アーカイブスではむしろ1980年代に増加、1990年代は微増、2000年代に激増している。NHKにおける文字発生装置の使用は、仮説で述べた通り1988年であった。しかし文字情報は、この機

<sup>\*\*\*</sup>朝日新聞 2009年8月22日朝刊「テレビ字幕、なぜ入れるの?」(記者・高津祐典)より

器の進歩に直結して、つまり、表記道具の変化を承けて1990年代に入ってから一変するとは考えにくい。なぜなら、文字情報のような表記は、文字情報を享受する視聴者側(読み手側)の「読む」ことへの慣れという習慣形成が必要になるからである。

こうした文字情報の性格を考えたとき、1990年代までの増加に比べ、2000年代になってからの増加では、文字情報が質的に変化した可能性が高い。また、1960年代、1970年代、1980年代で増加したものがどのようなものであるのか。これら文字情報の質的な異同を見るため、それぞれの年代に見られた表記内容を取り出し、分析を進めることとする。

## 4. 質的变化

### (1) 文字テロップ以前(1960年代)

1960年代のコンテンツは、文字情報のほぼすべてが美術小物に表記されていて、現在のバラエティ番組によく見られる文字テロップ(編集時に映像に被せられる文字情報)はほとんど見られない。

トーク番組「夢であいましょう」の冒頭部分では、カレンダーを模した美術小物(放送日1962.1.13)や、居酒屋の棚に並ぶ瓶のラベル部分(放送日1965.8.28)が映し出される。ここに、番組名、出演者や制作者の名前といった、基本的な構成を示す単語が記されている(表1の1から4を参照)。つまり、1回ご

表1 文字情報の表記内容(1960年代)

	文字情報	表記内容
1	バラエティー ゆめで逢い ましょう	番組名
2	バラエティー 夢で あいましょう	番組名
3	バラエティー 夢であいましょう	番組名
4	E.H.エリック 黒柳徹子 渥美清	出演者(名前)
5	こんにちは赤ちゃん 詞・永六輔 曲・中村八大 歌・梓みちよ	歌の情報 (歌詞なし)
6	私の秘密 482回	番組名
7	司会 八木治郎	司会(役と名前)
8	私はアンデス山脈の処女峰を征服し日本 女性の登頂新記録(6,060m)を作りました	クイズの解答

とに当該の放送内容に合わせた美術小物が並べられ、そこに表記された単語を撮影することで番組構成を明示する演出である。これに加え、歌が挿入される場合には、題目と作詞作曲者、歌手を手書きで表記した文字テロップが見られた(表1の5参照)。また、クイズ番組「私の秘密」では、番組名や出演者名は舞台セットに表記され、クイズの解答は手書きの文字テロップで示される(表1の6から8参照)。

以上のように、1964年の写植化後の文字情報は、美術小物や舞台セットに表記された文字を撮影すること

で、文字情報として示すものがほとんどであった。その表記は手書きであるうえ、表記する小物やセットなどに応じて文字配列を調整するためだろう。表1の1から3が示す通り、同じ番組名を表記する場合であっても表記にゆれが見られた(「ゆめ／夢」「逢いましょう／あいましょう」)。以上の表記道具及び制作事情から推して、1960年代には文字情報を大量生産して映像に加えることが困難だったと思われる。それゆえ、コンテンツ1本当たり20度前後の出現回数(前ページ図1参照)に収まることになったのだろう。

### (2) 文字テロップによる詳細化(1970年代)

1970年代に入ると、美術小物や舞台セットによって出演者を明示する文字情報はそのまま、文字テロップによって追加された文字情報が見られるようになった。それらは、表2に示す1, 2, 4, 5のようなものである。1と2はクイズ番組の形態の変化に伴うもので、1はクイズ問題を示す。2は出題者(視聴者)を示す。4は、現在の音楽番組にはなじみ深いものであるが、1970年代当時は一部の音楽番組にしか見られない、歌の歌詞である(「紅白歌合戦」に歌詞が見られるのは1982年である)。また、「紅白歌合戦」では歌手についての情報が詳細になって、以前は名前だけだったものが、5のように出場回数も付記されるようになった。

表2 文字情報の表記内容(1970年代)

文字情報(文字テロップ)	表記内容
1 Q「オタイコ結び」のいわれは…?	クイズの問題
2 出題は 東京都調布市の 古川やよいさん	クイズの出題者
3 丘を越えて(昭和6年) 島田芳文・詞 古賀政男・曲	歌の情報
4 丘を越えて 行こうよ 真澄の空は 朗らかに晴れて楽しい心	歌の情報(歌詞)
5 布施 明(4回出場)	歌手(名前と出場回数)

これらは、番組の基本的な構成を明示するだけでなく、より詳しい情報を加えて視聴者に伝えようとする表記内容であり、文字情報が詳細化していったと言える。

### (3) 文字テロップによる演出効果(1980年代)

1980年代は、資料としたコンテンツ数が増えた年代である。これは、NHK アーカイブスにおける閲覧可能なコンテンツが増えただけでなく、番組編成が変わって夜遅くまでバラエティ番組の放送を実施するようになったことも要因の一つだと考えられる。後に示す資料表7よりゴールデンタイムの番組編成がわかる。表7より、バラエティ番組の種類が増えたのは1970年代であることが確認できる。1980年代にはこれらに加えて午後10時(表外の時間帯)放送の音楽番組「ザッツミュージック」などが加わるようになっていた。

このようにバラエティ番組が増量してくると、各番組によって趣向が細分化し、それぞれの個性が発揮されるようになる。この点について文字情報の表記内容から見ると、表3の1から3のように、当該

表3 文字情報の表記内容(1980年代)

文字情報	表記内容
1 次は 減点ファミリーです	企画名「減点ファミリー」
2 特集・夏休み昆虫講座	クイズのテーマ
3 ボーナスクイズ	企画名「ボーナスクイズ」
4 80 165	クイズの得点結果
5 (日本語詞) 夜遅くに帰るとママからおめだま	歌詞(訳詞)
6 To you, sweetheart, aloha Aloha from the bottom of my heart	歌詞(原語)
7 紅組 司会 黒柳徹子	司会(組, 役, 名前) ※「紅組」は赤字
8 加山雄三… 神奈川県横浜市出身(出場9回)	歌手 (名前と出身地と出場回数)
9 踊り スクール・メイツ	出演者(役と名前)

コンテンツの個別的なテーマや企画名が登場している。また、4(舞台セットの文字情報)のように、当該コンテンツのゲーム独自の演出として、得点結果が見られる。さらに歌詞は、音声情報が外国語の場合、テーマに合わせて歌詞を訳すもの(5)と、原語のまま表記するもの(6)が見られる。7から9は歌番組「紅白歌合戦」より、赤字使用(7)、歌手についての詳細な情報(8)、これに比して背景で踊るダンサーは簡略で限定的な情報(9)となっている例で、一本のコンテンツ内においてさえ多彩な表記内容が見られた。これらは、単調で一律なものではなく、それぞれ個性が確認できる表記内容である。

こういったものは、1970年代に確認した文字テロップのように、詳しくこまめにコンテンツ内容を明示するという側面がある。しかしながら、これまで以上にコンテンツ内容に即して各々工夫した個性を持っていることから、詳細化だけではない表現意図として、コンテンツの個性を明示する、つまり、コンテンツを演出する文字情報である、ということが考えられる。

当時、つまり1980年代という調査時点は、文字発生装置の導入以前である。それにもかかわらず、文字情報の多くを占める文字テロップが、番組を盛り上げて演出効果を担う技術の一つとなっていたのである。

**(4) 文字テロップによる画像デコレーション(1990年代)**

文字発生装置が導入され、1990年代に入ってから文字テロップは、それまで見られなかった高いデザイン性や凝った装飾が見られるようになった。

1980年代までは、ほとんどの文字が白いゴシック体に黒の縁取り(エッジ)であった。これらに混じって、たまに赤字があったり、手描きによって装飾性の高い文字デザインが見られたりすることがあった。それが、文字色や文字の背景色及び縁取り(エッジ)など、文字のデザインが多様化し、コンテンツ内容に合わせて加工された文字テロップを被せることができるようになったのである。

**表4** 文字情報の表記内容(1990年代)

文字情報(文字テロップ)	表記内容	デザイン
1 朝顔道楽は高級な趣味だった	説明の要点	フォント：勘亭流 文字色：白 エッジ：黒
2 Come here カムヒアー ↓ カメヤ	説明の要点	フォント：3行ともゴシック体 1行目文字色：白 「↓」下3行目の文字色：赤
3 総合司会 宮本隆治 アナウンサー 草野満代 アナウンサー	司会 (役、名前、職名)	文字色：黄緑、背景：楕円 背景色：黄色系のパステルカラー ※パステルカラーの使用は初めて

表4「デザイン」の欄に示す通り、フォントや文字色、背景色などが格段に豊富になっている。このため、説明の要点をまとめるところではシンプルにする、指示対象を際立たせるところでは華やかにするなど、表記内容に即してデザインが選択されるようになった。

そうした見た目の装飾は目立つものの、1980年代に比べて出現回数や表記内容のバリエーションが増幅したということは見られない。とはいえ、文字テロップが担う演出効果から言えば、これは大きな変化だと言える。文字テロップの演出効果は装飾性を獲得し、画像をデコレーションするものとして位置づけられるようになっていったのである。

**(5) 文字テロップによる臨場感(2000年代)**

2000年代に入って、文字テロップの表記内容には新しいものが登場する。文字テロップによる状況説明、つまりは「実況中継」と呼べるようなもので、「今、この場で、(何が、)どうしている(どうだ)」という経過や発話を写し取った表記内容が加わるのである。いずれも、極めて即時的で現場的な表記内容であり、今日(2011年現在)のテレビにはなじみ深いものと言えるかもしれない。

例えば、表5の1のルールや4,5のような状況(出演者の行為)は、繰り返し同じパターンで出現する(文字のアニメーションやフォントが同一で出現する)。また、6,7のような発話を表記する場合、しゃべる速さに応じて表記内容が変わる。ごく短い字数の文字テロップ(文字情報)が頻出して出現回数が激増

**表5** 文字情報の表記内容(2000年代)

文字情報	表記内容
1 1つできて10点	ルール
2 トランプ 57秒57	状況(残り時間)
3 あと3問!	状況(残りの問題数)
4 考え中	状況(出演者の行為)
5 完成じゃ!	状況(出演者の行為)
6 おっ 鶴瓶!	状況(出演者の発話)
7 総練習(リハーサル)で見ていた	状況(出演者の発話)

する時代となった。コンテンツによっては文字情報がほぼ常時、見られる構成になっており、画面上の文字情報が常態化する。

このように、文字情報(その多くは文字テロップ)が頻出することは、「今、この場」という臨場感を表現するものだと考えられる。視聴者にしてみれば、番組の時間軸に沿った「今、この場」という臨場感を、文字情報を通じて体感することになっているからである。

## 4. 考 察

### (1) 文字情報の機能

経年で文字情報の量的・質的变化を見ていくと、文字情報は増加しているが、その表記内容は単純に同一のものが繰り返されてきたのではない、ということがわかった。文字情報は、題目や出演者などの表記内容によって、単純な構成明示をする機能から始まった。その後、文字テロップの追加によって、表記内容の詳細化が進む。さらに、番組の個性に応じた表記内容が発生し、文字テロップの装飾性も高まり、演出効果を担う機能が追加された。

こうして画像をデコレーションした時点で、バラエティ番組における文字情報は、単に画像情報や音声情報を文字表記によって視覚化するという、番組の構成明示の機能だけではなく、番組の構成明示の機能は、視聴者に正確な伝達を促すものであるが、演出効果を担う機能は、視聴者にそれ以上の何かを促している。

では、この演出効果の機能は、以前の美術小物に頼っていた文字情報と違い、何を視聴者に促しているのだろうか。

美術小物は撮影段階で用意され、予めあつらえた表記内容である。それに対し、文字テロップは編集段階で加えられるものである。文字テロップの表記内容は、即時的な演出に応じて現場を写し取るような表現を可能にした。録画された内容に応じて、表記に用いる装飾を自在に選べるうえ(画像デコレーション)、番組のなかで発生している時間軸に沿った「今、この場で、どうしている」(臨場感)を視聴者に伝達するものになったのである。演出効果の機能は、視覚に訴える比重を高め、視聴者に画面を誇張する。こうした誇張は、番組を見てみよう、テレビを見てみようという、視聴者の視聴行為を促す。視聴者のテレビに対する関心をひっかけもの、つまり「フック」として働くのだと考えられる。

### (2) 機能分化の要因

このように文字情報の機能が追加された要因は、一つには仮説で述べたような機器の進化が挙げられる。文字テロップの装置が進化することで、新しい表現が可能になった。表記者(制作者であり書き手)にとって「何をどう書くのか」という行為選択の幅が広がったのである。これを承けて、表記者の意識に変化が生じ、表記内容や装飾を変化させることになったと考えられる。

以上の発信者側の事情に加え、受信側の状況としては、1990年代のハイビジョンテレビ発明やテレビ画面の液晶化、それに伴う薄型テレビや大型テレビの普及がある。これら受信機器の進化もまた、はっきり見やすい画像を作り出し、文字情報の増加を支えたものだと考えられる。

ほかにも、視聴形態では「ながら視聴」(テレビを見ている時に食事や掃除など、何かをし「ながら視聴」する視聴形態)の増加が挙げられる<sup>3)</sup>。専念の視聴ではない「ながら視聴」では、ちらっと見たときに何をしているかすぐにわかるテレビ、つまり「今、この場で、(何が、)どうしている(どうだ)」を積極的に訴え、ちょっとでも振り向いてもらえるテレビが要求されることとなった。視聴のきっかけとして「フック」となる文字テロップが頻繁に使われる要因は、視聴者側の変化にも見られるのである。

## 5. おわりに

本研究では、NHK バラエティ番組における文字情報(文字テロップを含む)について1960年代から2000年代までの変遷を追うことでテレビにおける表記実態を記述し、その機能と機能分化の背景にある要因を考察した。文字テロップが表記である以上、表記道具の制約は大きい。その制約が機器の進化によって軽減するにつれ、表記内容が量的・質的双方の面で豊富になり、今日のような大量に多彩な表記実態を形成していったことを確認した。

また、現状に至るには表記者の意識や、映像受信機器(テレビ)の進化、視聴形態の変化なども影響することを考察した。設楽(2010)が述べる歌番組「紅白歌合戦」については、番組傾向に特化した分析とし

て上記と異なる要因に「カラオケの普及」<sup>1)</sup>も検討したが、バラエティ番組を一括して見ると、表記道具が大きな要因だったと言わざるを得ない。表記者が「何を書きたいか」は、「何が書けるか」によって取捨選択され、表記を決定するのである。

付記：本稿は「NHK アーカイブスの学術利用に向けたトライアル研究」における成果の一部です。

## 資 料

【対象コンテンツ】タイトル(放送年月日)の順で示す。

夢であいましょう(1962.1.13) (1963.12.7) (1965.8.28), 私の秘密(1964.9.28), 歌のグランドショー (1968.1.7) (1977.11.16), 思い出のメロディー (1970.8.8) (1973.8.4) (1974.8.3) (1981.8.8) (1986.8.16) (1990.8.11) (1993.8.14) (1996.8.17), ステージ 101 (1972.1.19) (1974.3.31), レッツゴーヤング(1978.3.19) (1979.4.15) (1979.9.9) (1981.1.25) (1982.7.4) (1983.5.29) (1984.1.22) (1985.1.22) (1985.7.7) (1986.1.26), ビッグショー (1975.9.21), ゲーム ホントにホント? (1975.10.29), クイズ面白ゼミナール(1980.9.6) (1985.7.21) (1987.6.14) (1988.4.3), お笑いオンステージ(1980.9.21), 愉快にオンステージ(1989.4.24) (1992.9.5), 金曜オンステージ (2000.7.21), ばらえていテレビファソラシド(1980.11.13), ザッツミュージック(1985.4.3) (1987.7.15) (1988.7.21), どんなモンダイQ てれび(1985.10.28), ヤングスターバラエティー (1987.8.16), 加山雄三ショー (1987.1.10) (1988.1.23), 音楽・夢コレクション(1988.4.29) (1990.6.1), 連想ゲーム(1988.8.31) (1990.5.30), ときめき夢サウンド(1995.4.30), クイズ 日本人の質問(1995.5.7), 新・クイズ 日本人の質問(2000.5.14), コメディー・お江戸でござる(1995.8.3) (2000.5.18), コメディー道中でござる(2005.6.18), 鶴瓶の家族に乾杯 (2000.1.15) (2005.1.8), 頭のゲーム 脳ビタくん(2000.2.19), あなたも挑戦! ことばゲーム(2005.3.18), きよしとこの夜(2005.12.23), 紅白歌合戦(1963年から2005年までの12.31)

表6 「ゲームホントにホント?」開始5分間のデータ例

	表示時間	文字情報	備考
1	13:05:37.06	ゲームホントにホント?	画面全体
2	13:05:46.12	?	画面全体
3	13:05:59.25	相川 浩 アナウンサー	画面左下
4	13:06:12.00	高松英郎	画面下中央
5	13:06:13.25	田坂 都	画面下中央
6	13:06:18.25	浜村 淳	画面下中央
7	13:06:13.25	根上 淳	画面下中央
8	13:06:35.08	若原寛己さん 仁戸田直子さん	画面下中央, 1行
9	13:06:39.27	鍋島孝雄さん 玲子さん	画面下中央, 1行
10	13:06:47.29	藤木 悠さん 晶子さん	画面下中央, 1行
11	13:06:54.08	鬼塚一夫さん 君江さん	画面下中央, 1行
12	13:07:15.16	飯野恵子	画面左下
13	13:07:39.20	出題は 東京都調布市の 古川やよいさん	画面下中央, 3行にわたる
14	13:07:43.05	Q「オタイコ結び」のいわれは…?	画面下, 「Q」はデザイン化されたもの
15	13:10:04.09	高松 叩く音から 田坂 タイコモチがひろめた 浜村 太閤秀吉 根上 亀戸天神の 太鼓橋	クイズの選択肢を四隅の角に省略した 表記内容で提示
16	13:10:39.13	安藤広重画	浮世絵を映している画面下

※「表示時間」はコンテンツの画像上方に予め提示される表示時間であり、コンテンツ開始が0:00:00.00とは限らない。



表7 NHK 総合チャンネルのゴールデンタイムの番組編成

年月・曜日	午後7時30分	午後8時00分	午後8時30分	午後9時00分	午後9時30分
1965.4.月 火 水 木 金 土 日	新日本紀行 特派員報告 生活の知恵 海外取材番組 現代の映像 それは私です※ 歌のグランドショー	私の秘密 ジェスチャー あしたの家族 黄金のいす 大衆名作集 四季に花咲く※ 太閤記	コント・ドラマ お笑い三人組 あしたの家族 うなぎ繁盛記 大衆名作集 テレビ指定席※ 太閤記	ニュース※ ニュース※ ニュース※ ニュース※ ニュース※ テレビ指定席※ ニュース※	虹の設計 事件記者 深い河 風雪 コンサート・ホール ニュース※ ある人生
1975.4.月 火 水 木 金 土 日	新日本紀行 特派員報告 海外取材番組 スポットライト※ ドキュメンタリー 連想ゲーム※ お笑いオンステージ	続けたたいな人びと 歌のゴールデンステージ ゲーム ホントにホント? お国自慢にしひがし※ ふりむくな鶴吉 警部マクロード 元禄太平記	続けたたいな人びと 歌のゴールデンステージ バラエティ世界史漫遊 お国自慢にしひがし※ ふりむくな鶴吉 警部マクロード 元禄太平記	ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 きらめくりズム ビッグショー	銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 ニュース ニュース
1985.4.月 火 水 木 金 土 日	ウルトラアイ 地球防衛軍テラホークス 連想ゲーム 関東甲信越小さな旅 おしゃべり人物伝 ハロー！ワールド クイズ面白ゼミナル	NHK 特集 NHK 歌謡ホール 真田太平記 この人…※ NHK 特集 勝ち抜き歌謡天国 春の波濤	NHK 特集 NHK 歌謡ホール 真田太平記 この人…※ NHK 特集 勝ち抜き歌謡天国 春の波濤	ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 ニュースセンター9時 ドラマ人間模様 NHK 特集	銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 銀河テレビ小説 ドラマ人間模様 NHK 特集
1995.4.月 火 水 木 金 土 日	ニュース ニュース ニュース ニュース ニュース 土曜特集 クイズ日本人の質問	生きもの地球紀行 歌謡コンサート ためして合点 コメディお江戸でござる 宝引の辰捕者帳 土曜特集 八代将軍吉宗	ドラマ新銀河 ドラマ新銀河 ドラマ新銀河 ドラマ新銀河 宝引の辰捕者帳 ニュース ニュース	ニュース9 ニュース9 ニュース9 ニュース9 ニュース9 ドラマ NHK スペシャル	クローズアップ現代 クローズアップ現代 クローズアップ現代 クローズアップ現代 クローズアップ現代 ドラマ テレビ自由席
2005.4.月 火 水 木 金 土 日	クローズアップ現代 クローズアップ現代 クローズアップ現代 クローズアップ現代 特集首都圏 土曜特集 アニメ	地球・ふしぎ大自然 NHK 歌謡コンサート ためしてガッテン 探検ロマン世界遺産 鶴瓶の家族に乾杯 土曜特集 義経	首都圏ニュース 845 首都圏ニュース 845 首都圏ニュース 845 首都圏ニュース 845 首都圏ニュース 845 ニュース ニュース	ニュース9 ニュース9 ニュース9 ニュース9 ニュース9 日本の、これから 日本の、これから	きよしとこの夜 プロジェクトX 挑戦者たち その時歴史が動いた 難問解決!ご近所の底力 金曜時代劇 NHK スペシャル NHK スペシャル

本表は、NHK アーカイブス アカイさん資料室(<http://www.nhk.or.jp/archives/dataroom/>) (2010年7月5日)より作成。ゴールデンタイムとは午後7時から10時までを指すが、7時からの30分はすべてニュースだったため本表では午後7時30分から10時までのプログラムを記載している。本研究における「バラエティ番組」と呼べるプログラムを「枠囲み」とする。なお、プロ野球等、別プログラムを併記している場合は※を付す。

## 引用文献

- 1) 設楽馨, 武庫川女子大学言語文化研究所年報(21) 47-58 (2010)
- 2) 設楽馨, 言語と交流(14) 90-103 (2011)
- 3) NHK 放送文化研究所, テレビ視聴の50年, 日本放送出版協会, 東京, pp.136-143 (2003)